

●進水船二十隻

現時海運界活躍の狀勢に鑑み、造船事業は未曾有の活況を呈し居れるか、今一千噸以上の船舶建造に關し最近遞信省の調査する處に依れば本年一月五隻一萬六千九百六十三噸二月二隻一萬四百八十五噸三月六隻二萬六千八百七十六噸四月三隻八千五百三十八噸五月四隻九千八百二十二噸にして合計二十隻七萬二千六百八十四噸となれり、斯の如きは實に我國空前の盛況にして僅に五ヶ月間の進水船を見るも尙昨年一ヶ年の總計よりも多きに達せり、去れば假令材料缺乏の聲高しと雖も尙今後造船界の活躍注目すべきものあり。

船名	噸數	船主	造船所
新利丸	一、三〇二	張本政	大阪鐵工
悠紀丸	三、一六二	馬	同
明海丸	三、一八五	明治海運	同
廣速丸	三、一八九	廣海	同
主基丸	三、二〇〇	辰馬	同
廣通丸	三、二〇〇	廣海	同
但馬丸	七、三〇〇	郵	川崎
龍野丸	七、三〇〇	郵	同
常盤丸	七、三〇〇	同	三菱
敦賀丸	七、三〇〇	同	同
秋田丸	三、八〇〇	同	同
浦賀丸	二、一〇〇	日露漁業	浦賀船渠
山形丸	三、七七七	日露漁業	同
東泰丸	三、二〇〇	郵	三菱
勝浦丸	一、六九五	同	大阪鐵工
吉備丸	一、一五〇	同	神戶三菱
貴船丸	三、二〇〇	同	播摩船渠

雜錄

萬字丸	二、一三八	北海炭礦	浦賀船渠
江崎丸	三、二〇〇	日露漁業	大阪鐵工
天王丸	二、二四八	石川汽船	浦賀

●造船臺の増設

海運界の盛況に伴ひ我造船事業は

非常なる繁忙を極め、各造船所何れも設備を擴張し從來一千噸以上の造船臺十九臺なりしもの今は三十七臺と爲りたり其數左の如し。

- △大阪鐵工所十二臺△神戸三菱造船所三臺△長崎三菱造船所六臺△川崎造船所六臺△松尾鐵工所二臺△小野鐵工所二臺△浦賀船渠會社二臺△石川島造船所二臺△播摩造船所二臺。

●役に立たぬ鐵鑛

役に立つ鐵鑛は磁鐵鑛と赤鐵鑛

と褐鐵鑛なり、鏡鐵鑛、輝鐵鑛、雲母鐵鑛は、赤鐵鑛の別名にして、沼鐵鑛は褐鐵鑛の別名なり、何れも有用鑛物なれば本論より省く、クローム鐵鑛も有用鐵物なれば省く、黃鐵鑛又の名は硫化鐵鑛、此れも御承知の通り有用鑛物なれば省く、磁硫鐵鑛は綠礬の原料となる有用鐵鑛なれば省く。茲に本邦にては役に立たぬか偶々何々鐵鑛なる名を冠せられたる胡亂のものを御紹介申すへし。

(一)自然鐵。此れは嘗つて肥前西ヶ嶽に産すと傳へられし事ありたり、若し多量にても産するなら有用鑛物なるへさか、其の發見せられしものは米粒の四分分程のもの二箇のみにして、然もよく調へて見ると天然物なるや靴の

裏の釘の頭なるや分からすとの事て、先は一笑に附す。

(二)白鐵鑛。此れは黃鐵鑛と同成分のものなり、昔し人智の開けざる明治三十年頃迄は盛に各地より白鐵鑛を産出せしかサテ學術の開けたる現今其産地少くして其産出も極めて稀となれり。産出少くしては無用のものなり。

(三)チタン鐵鑛、皆磁鐵鑛中に混して産す、分ける事も出来ず有害無益のものなり、其内チタン鐵鑛のみ多く出る所ても知れたら又其時の事。

(四)フランクリン鐵鑛。朝鮮の各地に産すと云ふ事にする方か、面白いか面白いか吾々か面白半分考へて居る程度のもので其現物確ならず。

(五)菱鐵鑛。各所に少しつゝ産すれとも、鑛物標本にするにも足らぬ程の産出なれば駄目。

(六)硅灰鐵鑛。此れは漆黒色にして、鐵と石灰との硅酸物なり、長門藏目喜、神岡、草倉等の各地に産す、嘗つて草倉にては此れを鐵鑛と思ひて鑛區を出願し許可を得て、サテ呆然たりし事あり、又此れを銅製煉の熔劑に用ひて呆然たりし事もあり、此れを無用の實驗的研究と云ふ。

(七)藍鐵鑛。此れは昔青鐵鑛と云ふ、結晶をして産するものと土狀のものとなり、結晶せるものは足尾に産す、初めて足尾にて産出せし時、駄技師は之を藍色の石膏なりとして珍重せり、分析の結果藍鐵鑛と云ふ珍鑛物なりとて愈々珍重せり、勿論無用鐵鑛なれとも學者連中か標本に呉れ

とて諸方よりの註文來る、足尾の技師は現場員に其採集を命ず、現場員其煩に堪えず此の有害鑛物の奴めと怒つて人知れず皆破壊し去つて、其標本も今は得るに難くぞなりにける、無用鑛物も時に有害鑛物となる、土狀のものは其美はしき藍色なり、歐洲戰亂の結果染料不足の時、此の藍鐵鑛を染料にせんとして大さわざする山師の好材料に過ぎず。

(八)毒鐵鑛。木浦鑛山に一種の無用鑛物を産す、其量輕少にして其形微少なり、明治二十八年には錫石と鑑定せられ、二十九年には斧石と變化し、三十年には毒鐵鑛となつて、三十一年には葱臭石となる、其實は毒鐵鑛でも葱臭石でもなく全く異種の含水砒酸鐵の鑛物なり。如何に無用鑛物なればよしとするも毎年々々の改名は少々恐入る、誠に學者を毒したる鐵鑛なり。

(九)ラドラム鐵鑛。足尾産にて美しき淡綠色の小結晶なり、珍品にて稀有なり、嘗つて輝沸石なりとして考へられしか、調査の結果磷酸鐵より成るラドラム鐵鑛なること判明せり、尤も輝沸石でもラドラム鐵鑛でも無用鑛物なれば益も損もなし、但し試に足尾に命じて其標本を採集せしめ給え、ラドラム鐵鑛は悉皆大鮫か採集し盡したる跡なれば、如何にしても得る事能はず、足尾は大さわざして有害鑛物の一に數へらるゝに至るへし、先づ鐵鑛と云ふ名を冠して居なから役に立たぬものは斯の通りなり(鑛業會誌三七四號)

●名古屋電燈會社の硅素銑製造開始 名古屋電